

教育委員会と公安委員会各委員による意見交換会について

平成23年9月15日

総務企画課

意見交換会の概要について、下記のとおり報告します。

記

- 1 日 時 平成23年9月2日（金） 14時30分～16時30分
- 2 会 場 ルビノ京都堀川「ひえい」
- 3 出席委員
【公安委員会】
吉田委員長、瀧委員、油谷委員、村上委員、石川委員
【教育委員会】
大橋委員長、冷泉委員長職務代理者、畑委員、谷口委員、平塚委員、田原教育長
- 4 内 容
 - (1) 開会
ア 京都府公安委員会委員長あいさつ
イ 各公安委員紹介
ウ 京都府教育委員会委員長あいさつ
エ 各教育委員紹介
 - (2) 議事
ア 現状説明
① 少年非行の現状と非行防止対策の取組（警察本部少年課長）
② 児童生徒の問題行動の状況と取組（教育庁指導部長）
イ 人事交流職員の報告
ウ 意見交換
【討議テーマ】
① 少年非行防止対策について
② 学校と警察が連携した問題解決のための取組について
 - (3) 総括
ア 京都府公安委員会
イ 京都府教育委員会
 - (4) 閉会

5 主な意見

- スクールサポーター制度は、学校現場の期待も大きく、適切で機敏な対応がとれるようにするためにも、さらなる配置人数の充実が必要である。
- スクールサポーターを警察官OBに限定するのではなく、教員OBを含める等、警察と教育の垣根をなくすことができれば、さらに活用することができるのではないかと考える。
- 非行問題は家庭環境に起因する部分が大きいと考えられるため、行政として親への指導を組織的に行う体制作りが、結果的に非行減少につながるのではないかと考える。
- 学校や子どもたちを守るため、教員が子どもたちと向き合い、情熱を発揮できるような状況、時間を確保できる体制の構築が必要である。
- 少年非行は社会全体の問題であり、地域、学校、保護者、マスコミ等、社会全体が責任と共通認識を持ち、解決策を考えなければいけない。
- 規範意識を育て、非行少年の居場所を考えるとといったものは、中・長期的な課題であり、短期的に取り組めるものとして、スクールサポーターが活動しやすい状況を作ることである。
- 府内の児童生徒の約半数は京都市内の学校に在籍しているため、意見交換会の場で京都市教育委員会も一緒に議論し、対応策を考える必要がある。

6 総括

- 今後も警察と教育現場との連携を一層強化し、課題解決に向けた支援体制の整備を推進することが非常に大切である。
- 多様化・深刻化する少年非行、問題行動に対しては、学校と警察の連絡制度やスクールサポーターと連携した非行防止教室の開催などを効果的に活用し、児童生徒の規範意識の醸成や、幼児期からの豊かな心の育成にも取り組みを進める。
- 府内の児童生徒の約半分は京都市立小・中学校に在籍しており、京都市教育委員会との連携も非常に重要である。次回は京都市教育委員会にも参加を呼びかけ、意見交換の開催を検討したい。

少年非行防止で連携

府公安委と府教委が確認

京都府公安委員会と府教育委員会の意見交換会が2日、京都市上京区のルビノ京都堀川で開かれ、教育現場と警察が連携した非行少年の支援について話し合った。

府内の非行少年の再犯率などが昨年度、全国ワースト3位だったことを受けて2年ぶりに開催され、両委員計11人が参加した。

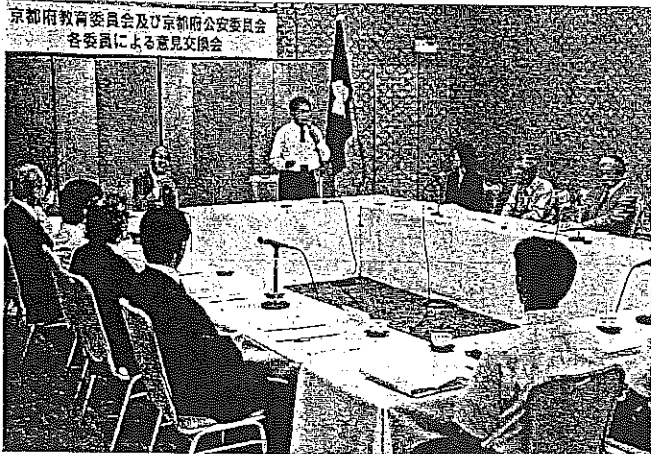
はじめに、府警と府教委の担当者が、少年の対教師暴力が増加し、学習のつまずきや家庭問題が背景にあるとの現状を報告。警察官OBが「スクールサポーター」として非行防止教室を開く取り組みが紹介された。

府教委の委員からは「家庭問題が非行につながるケースが多

く、親への指導も重要な」と、府公安委の委員からは「教師も暴力に対する実践的な対処法を身につける時代に来ているのでは」と

互いの人材やノウハウを生かす取り組みを進めることを確認した。

(辻智也)



京都府教育委員会及び京都府公安委員会各委員による意見交換会
少年の非行防止について話し合う委員たち(京都市上京区・ルビノ京都堀川)